

# 怒りを総結集し「60・3」を粉碎せよ

## 日刊 動労千葉

85. 1. 9

No. 1834

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

### 蘇我廃止成田縮小反対、組合要求獲得

1月6日、伊勢神宮を参拝した中曾根は「今年の内政課題は国鉄と教育改革だ」と述べ、侵略戦争を遂行できる国鉄づくりをむけ、本格的な国鉄労働運動解体にのり出す本音を明らかにした。われわれの職場は、国鉄「再建」に名をかりた再建監理委員会の「分割・民営化」答申に基づく10万人首切り攻撃が吹き荒れている。首切り「三本柱」をはじめ「60・3ダイ改」こそその突破口である。動労千葉は、職場からの総決起体制を確立し、動労「本部」革マルの裏切りを蹴ちらし、第2の「81・3」を辞さず闘い、粉碎しぬく決意である。

#### 効率化・要員削減のみ優先の「60・3」

「60・3ダイ改」は、動乗勤制度の改悪で、本線乗務員八千名、営業の合理化で七千名、検修・施設・電気・附属病院・工場・自動車等の合理化で一万名の合計二万五千名の要員を削減するという「分割・民営化」―20万人体制確立にむけたかつてない攻撃である。

当局は、動乗勤改悪による効率化のみを追求した提案により、乗務員八千名、千葉局的にみても二二〇名という実に「三人に一人の乗務員削減」を提案してきた。なんと一日平均乗務キロで機関士・気運士116・6キロ増、電運士143・9キロ増、労働時間でそれぞれ59分増、46分増のすさまじい労働強化となっている。

とりわけ「一日平均労働時間7時間24分」という内容は、動乗勤協定締結時の「6時間40分をクリアすればよい」との議事録確認を全く反古にしたものであり、断じて許すことはできない。

さらに加えて「蘇我機関支区廃止、成田運転区縮小」という今回の提案は「貨物三基地については存続することで最大限努力する」との「59・2」妥結時の「運輸部長メモ」をこれまた一方的に反古にする断じて許せぬものである。

#### 総力をあげた団体交渉で当局を圧倒

動労千葉は、11月15日の提案以降、全組合員の総決起で粉碎することを確認し、

①「過員対策」、②労働時間、③蘇我廃止、④成田縮小等々の具体的項目について説明を求める「申第8号」を当局につきつけて、全力で職場討議をつみ上げ、団交を展開してきた。しかしながら「60・3で国鉄がこんなに便利になります」などを国鉄当局の宣伝ビラと見まがうような反動的なビラをまいて「60・3」率先協力を表明している動労「本部」革マルと結託し、国鉄当局は「B仕業は団交事項ではない」などと高圧的姿勢で臨んできた。しかし、動労千葉は交渉で当局を圧倒

し、国労共闘をも強め労働条件を提示させてきた。

さらに、動労「本部」革マルの裏切りにより全国的に「線見」が実施されている現実を背景に、当局は「動労千葉が線見を拒否すれば他局に業務を移管する」との恫喝を加えてきた。しかしわれわれは「60・3」粉碎の決意に燃えた闘いにより「労働条件は従前の例をふまえ誠意をもって努力する」ことを確認させる成果をかちとり、12月25日、「線見」について一定の整理を行ってきた。

#### 全組合員の総決起で、「60・3」粉碎し、組合要求をかちとろう

闘いは、いよいよこれから「60・3」粉碎へむけての正念場を迎える。

組合要求を対置し、職場生産点からの全組合員の怒りの総決起で蘇我廃止反対、成田縮小反対、組合要求獲得にむけ、あらゆる手段を駆使して闘いぬき、「60・3」を粉碎しようではないか。動労千葉は1月7日、「60・3ダイ改」にむけた要求をまとめ「申第10号」として次のとおり申し入れた。

#### 基本要

1. 効率化、要員合理化優先の「60・3ダイ改」を撤回せよ。
2. B仕業についても「動乗勤協定（59・4・5）」の精神にふまえ、組合要求に基づき実施せよ。
3. 「申第8号」の解決を図れ。
4. 千葉局の運転関係基地の将来展望を明示せよ。
5. 全国レベルの路線状態を維持・向上し得る保守体制及び保守計画を示せ。
6. 職群の定数制度を廃止し、自動昇格制とせよ。当面、「8職群」を自動昇格制とせよ。
7. 機関士（交番担当）、構内運転関係職種（誘導担当）の勤務種別は現行どおりとせよ。

（なお「申第10号」のうち、要員、業務、運転保安、車両、設備、調度関係の要求については『交渉ニュース』を参照して下さい。）  
「60・3」粉碎、組合要求獲得にむけ全組合員の怒りの総決起をかちとろう。